

夏秋いちご通信 VOL.19

2009. 11



長野県の状況と夏秋イチゴ生産振興プロジェクト

9月16日から18日にかけて、長野県農政部・全農長野県本部、南信農業試験場などを訪問し、長野県の状況を視察してきました。今回は、その概要を紹介します。

【立地条件】

標高700m以上の高冷地が県の4割を占める長野県では、夏秋いちごの産地は、標高1,000m以上の地域に多く、面積の半分を県の中央東部に位置する佐久地区が占めている。佐久地区から消費地までの輸送時間は、東京2時間40分、名古屋4時間40分、大阪6時間40分となっている。

【栽培状況】

平成20年の作付面積は、県全体で約8%、品種はサマープリンセスが、約9割を占めており、生産者数は約60戸、系統出荷の割合は約半分となっている。

栽培方式は9割が高設栽培で、種苗は、(社)長野県原種センター(出資者：県、全市町村、農協関係団体、種苗団体)がポット苗(ウィルスフリー苗)で供給している。



両サイドを二段にして栽植本数を確保したハウス

【夏秋イチゴ生産振興プロジェクト(長野県園芸作物生産振興協議会事業)】

《目的》

夏秋いちごについて栽培技術を確立するとともに、地域における指導体制を構築し、10a当たり収量2.7トンを目指し、野菜農家の経営安定を図る。

《推進体制》

◆県推進チーム

構成機関：農業技術課、園芸特産課、南信農試、JA全農長野、JA長野県営農センター
推進内容：指導者の技術力向上、新品種求評会の開催(大阪、東京)、
県単補助事業(果樹や野菜全般を対象)の活用推進

◆地区推進チーム(10地方事務所単位で設置)

構成機関：地方事務所農政課、農改センター、全農長野事業所、JA
推進内容：地区巡回指導、研修会の開催(生産者対象)、JAと農改センター連携による指導体制の構築



サマープリンセス

【県育成品種の評価】

長野県南信農業試験場が育成したサマープリンセスは、果実の色、つやなど外観形質が極めて優れ、市場から高い評価を得ている。

県では、主力品種をサマープリンセスとして指導活動を展開しているが、サマーエンジェル(長野県南信農業試験場育成)の種苗販売が今秋から始まり、一部の生産者では導入の動きがある。

サマープリンセス	サマーエンジェル
果実重：9～10g前後 果形：円錐形(奇形果・乱形果が少ない) 果皮色：明赤色で艶がある 果肉色：黄白色 糖度：夏秋期は7～8% 酸度：0.8%前後(時期により差あり)	果実重：9～10g前後(やや小玉傾向) 果形：円錐形(やや肩が張り、整っている) 果皮色：濃赤(サマープリンセスより濃い) 果肉色：鮮紅 糖度：夏は8%前後、秋は10%前後 酸度：夏は0.8%前後、秋は0.9%前後

※ 両品種とも種苗の販売先及び栽培地は、長野県内に限られています。

夏秋いちご栽培 ワンポイントアドバイス 7

【ほ場を片づける前に】

土壤病害虫の発生や根張りを観察し、今年の土づくりや地温・かん水などの栽培管理、土壤消毒等が十分な効果をあげていたかなどを確認し、次年度の対策に役立てましょう。

まず、生育が不良な株を観察してみます。株のクラウンをカッターで横に切断し、褐変がないかを観察します。褐変がある場合は、別な株を縦に切断し、褐変がどこから侵入しているのかを確認してください。褐変が根からクラウン内部に侵入している場合は、土壤病害（萎黄病、根腐萎凋病、萎凋病等）の疑いがあります。葉かき痕からクラウン内部に侵入している場合は、葉かき痕が乾燥する前に土などが付着したり、曇天日に葉かきを行ったことなどが考えられます。また、根がまだらに褐変している場合は、ネグサレセンチュウの疑いがあり、クラウンに褐変はないものの根が褐変し根張りが悪い場合は、粘土質、排水不良などにより土の気相が少なくなっており、土壤の物理性が悪かったことが考えられます。

〔クラウン及び根の状態〕



正常な根



萎黄病(クラウン導管部の褐変)



まだらに褐変した根



褐変し、張りの悪い根

【来年度に向けて】

○ 土づくり

いちごには、肥料成分が低い植物質（バーク、もみがら、稲わらなど）の堆肥が適します。可能であれば、家畜の糞を含まない堆肥がよく、特に、土壤の物理性が悪く根張りが不十分な場合、もみがら堆肥などを継続して投入し、土壤改良に努めます。

○ 土壤診断

片づけ・耕起の後に土壤を採取し、次年度の施肥設計のために土壤診断を実施します。なお、冬に屋根ビニールを剥がす場合は、消雪後に土壤採取します。

○ なつあかりの苗管理

① ランナー確保のポイント

次年度の苗の確保に向けてランナーを多く発生させるためには、野外で十分な低温(5°C以下で約2000時間)に当てる必要があります。このとき苗を置く場所は、土壤病害の感染を防ぐため、ポリマルチや防根シートなどを敷いて土壤と隔離してください。

また、雪が少なく土壤が凍結しやすい地帯では、ポットの高さ分土を掘り下げて、その下に苗を置き不織布を掛けるなど凍害対策を行います。降雪地帯では、早めに雪をかけて凍害を防ぐと共に十分な低温遭遇時間を確保するように管理してください。

露地で越冬する場合は、必ず、野鼠対策を徹底してください。

② 5月下旬頃から7月中旬までの早い時期から収穫するポイント

秋定植の場合は、5°C以下の低温遭遇時間が約1000時間以内になるように温度管理を徹底することで、5月下旬頃の早い時期から収穫を開始し、7月上・中旬頃までの連続した収穫が確保できます。ただしこの場合、7月下旬～8月の花房数は極端に減少することがありますので、通常の作型と組み合わせで8月の収穫量を確保するようにしましょう。

ハウス内での越冬では、ハダニ類が発生しやすくなるので適正防除に努めてください。

..... 夏秋いちごの産地づくりに向けた情報を、毎月お届けします。

青森県農林水産部 農産園芸課 野菜花き振興グループ
〒030-8570 青森県青森市長島1-1-1 TEL 017-734-9481

